



ぐんま子どもセーフネットインストラクター

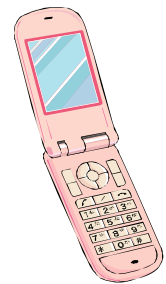
小此木正信

子どもの身近にあるネット社会の危険

「インターネット機能付き携帯電話」わざわざこんな言い方をしなくても、私たちが普段使用している携帯電話には当たり前のようにインターネット機能が付属されています。

つまりこの携帯電話はただの電話ではないのです。インターネットの端末機なのです。このことを十分理解しないと、今子どもたちが危険にさらされている現状を正確に把握することはできません。まずは、モバイルインターネット(携帯電話)が、なぜ商品化され、広がったか？

それは、ポケベルから始まりました。営業マンや保守サービス技術者にとっては、他者からの呼び出しを受ける機能的でうっとおしい道具でしかなかったポケベルが、女子高生らの子どもたちの手によって心に響くメッセージ伝達装置に変身しました。ポケベルは直接的な人間関係を避けつつ、友達を作り、つながることができる貴重なメディアというわけでありました。まずはメディアのなかの記号的存在としての友の数を増やす競争は、ポケベルから始まり声によるコミュニケーションツールとしての携帯電話時代へと引き継がれていきました。そして、携帯電話会社は、「今後、携帯需要を引っ張るのは、音声サービスではなく、インターネットに代表されるデータ通信サービスだ」と考え、iモードタイプの携帯電話が商品化されました。



こうしてモバイルインターネットの出現によって、それまでの電話のイメージを刷新させました。その中で、大人や親と子どもたちのそれを利用する目的や思惑や期待されることが異なりました。姿、形は今まで通りの通話装置であることから、そのようなメディアの中身の変貌は、外見からは見抜き難い大人や親は、「どこにいても、子どもの声がすぐに聞こえるから安心だ」とか「連絡を取りたいときに、いつでもこちらから連絡ができるから便利だ」等の大人の都合で子どもたちに持たせています。しかし、子どもたちは単に「連絡を取れるツール」ではなく、その電話のメディア機能の革新を見抜いたのであります。

つまり、大人や親は携帯電話を「歩く公衆電話」と見なしたのに対して、子どもたちは、これまでと違ったやり方で交友関係を広げたり、情報交換をしたり、知見を広げたりできることを知りました。インターネットのハイパーリンク機能(有機的な情報検索)やダイレクト・コミュニケーション(保護者の頭越しに直接見知らぬ人との会話)、コンタクト(見知らぬ人と結びつける)などデジタル通信機能の利便性を知りました。

インターネットの世界に踏み込む道具としての携帯電話に遭遇した「携帯ファースト・ユーザー」ともいべき子どもたちの目からすれば、モバイルインターネットは、同世代の人間関係や大人社会とのつながりを大きく変えるマジカルなコミュニケーションツールとして広がりました。だから携帯を使用する子どもは、常に危険にさらされているのです。インターネットにつながっている以上、友好的な大人・有益な情報ばかりではなく、悪い大人・悪い情報が常に保護者の頭を乗り越して子どものもとにやってきます。そして、判断力や自制力の未熟な子どもたちが常に犯罪に巻き込まれていること。これが、インターネット機能付き携帯電話の一番恐ろしいところです。

だから我々保護者は、インターネットの危険性を十分に認識し、注意していかなければなりません。そして、子どもの最終責任者として、しっかり子どものケータイ・インターネットの利用を指導していかなければなりません。

どんど焼き特集

金古南小学校地区

育成会単位で実施します。地域の世話役の人や育成会が中心になり小屋づくりをします。子ども達が各家庭を回って寄付金やお飾りやお札などを集めます。地域によっては前日に小屋のところで焼肉パーティーをするところもあります。当日は豚汁、甘酒などが振舞われます。字が上手になるように願いを込めて書き初めなども燃やします。開催日は一月十四日。子ども達は前日に作ったたまゆ玉やスルメを持って楽しそうに点火を待っています。



中川小大八木地区

大八木町内会、大八木環境浄化推進協議会、大八木育成会が主催で毎年一月十四日に行い

ます。地元の人達が三日間かけて道祖神小屋を作り前夜には子ども達が集めて楽しみます。高さ15メートル・直径6メートルの道祖神を作ります。まゆ玉や餅を焼き、無病息災や家内安全祈願しながら食べます。おでんや、甘酒も振舞われます。



国府小冷水地区

道祖神のお札を配りながら奉納金とお札などを子ども達が集めます。ヤケラは地区の方々が作ります。子ども達が太鼓をたたいて「どんど焼きがはじまるよ」と大きな声で言いながら地区をまわります。まゆ玉やスルメ、お餅などを焼いて食べます。甘酒やお菓

子なども振舞われます。子ども達は大変楽しみにしています。開催日は一月十四日です。



金古小学校地区

毎年成人の日に合わせ行っています。育成会と保存会の方々が三週間前くらいから準備に取り掛かり高さ約7〜8メートル直径約4〜5メートルの小屋を作ります。中は7〜8名が一夜を過ごせるような広さです。多くの人達で賑わうなか、早朝6時に火が入り老若男女問わずそれぞれの思いを込め見守ります。



堤ヶ岡小地区

6地区中5地区で地区の役員さんと育成会役員が中心に実施しています。地区によって振る舞われるものが様々で、甘酒、豚汁、お土産にミカンとお菓

子だったりします。また、どんど焼きの火で焼く物も前日作ったまゆ玉や「道祖神」と書いた書初め、スルメ、中には地元の野菜等を焼く地区もありバラエティーに富んでいます。太鼓を鳴らす地区、午後から餅つきなどもあり、全く同じという地区はないようです。昔からの行事継承中ですが、最近は縮小化の傾向の地区も有るようです。



上郊小中里地区

育成会、地区の自警団、八木節保存会が協

力し合い毎年行っています。小屋建ての日は、低学年児童は地区を回ってお飾りを集め、高学年はヤケラを組む手伝いをします。ヤケラはかなり大型なので、大人のほろが楽しんでいようです。前夜祭から始まり、当日朝7時に太鼓を打ち地区を回り、8時に点火します。



群馬南中井出地区

育成会と地区の役員、太鼓保存会、スポーツクラブ等の有志によって準備されます。一週間前から子ども達も一緒に道祖神を建てます。

西小学校地区

PTA行事の一つとして教育振興会と協賛で学校の校庭で実施します。区長さんを中心に前日に二つの小屋を作り、当日の朝8時半に点火します。婦人会、育成会の協力で甘酒、お汁粉、おでん、ミカンが振舞われます。他にも、コマ回し、はねつき、輪投げ、メンコなどの昔の遊びを親子で楽しめるコーナーも用意してあります。今年の開催日は一月十二日です。



開催されない地域の方も、今年はどこか出かけてみては？